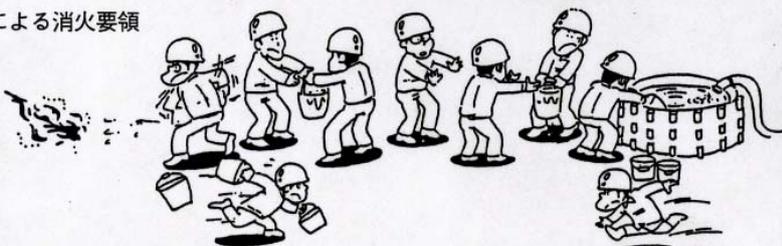
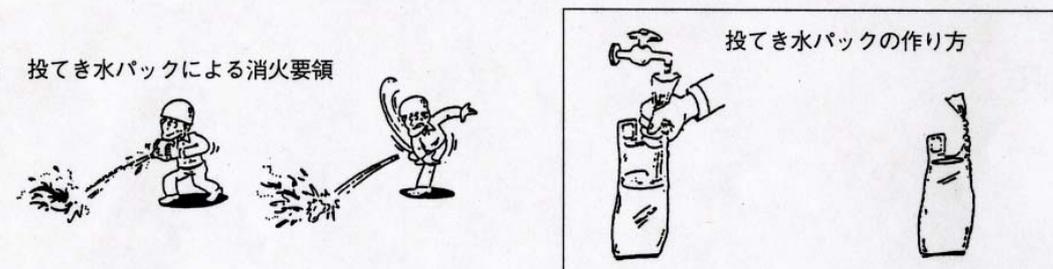
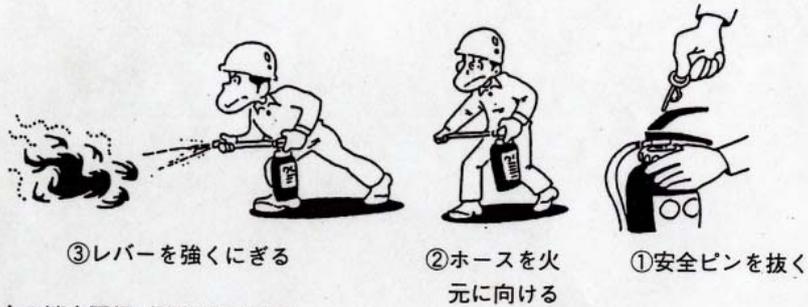


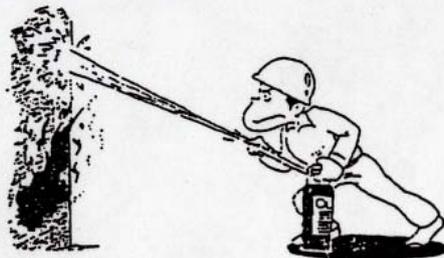
1 消火活動における資機材の活用要領

No. 1	初期消火活動用資機材（水バケツ・投てき水パック）	
<div style="display: flex; flex-direction: column;"> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p>1 三角バケツによる消火要領</p>  </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p>2 水バケツによる消火要領</p>  </div> <div> <p>3 投てき水パックによる消火要領</p>  </div> </div>		
消火用具の使い方	<p>1 三角バケツによる消火要領</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 目標を見定めて水が遠くまで飛ぶように反動を十分利用します。 2 三角バケツは最初に失敗しても何回かに分けてかけられるために慌てないようにします。 3 水の重さがあるため、両足を前後に開いて体を安定させて水をかけます。 4 火の勢いが強いときは、3～4m離れて注水し、火勢が衰えたら近づいて消火します。
	<p>2 水バケツ・投てき水パック</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 目標を見定めて遠くまで飛ぶように反動を十分利用します。 2 水の重さがあるため、両足を前後に開いて体を安定させて水をかけます。 3 火の勢いが強いときは、3～4m離れた位置から投げるか注水し、火勢が衰えてきたら近づいて消火します。
注意事項	<p><三角消火バケツ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 火元にかけたら、三角消火バケツ内に残っている水の漏水を防ぐため、バケツを素早く立てて引き、繰り返し注水します。 ○ 2～3回練習すると“コツ”が飲み込めるため普段から練習すること ○ 内部が仕切られているため、5～6回に分けて注水することができます。 <p><水バケツ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 火元建物に向かって2列に向き合って並びバケツを中継します。 ○ 水源はバケツが埋まる位の深さのある場所を選定し、中継はこぼさないよう行います。 <p><投てき水パック></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ポリプロピレン製の袋に約700ccの水をいれたものを燃焼物にぶつけ、消火するものです。 ○ ぶついたり、落としたりすると簡単に破れるため注意が必要です。 ○ てんぷら油火災のような油火災には、ぶつけることにより鍋を落としたり、油面を攪拌するため使わないでください。 ○ ある程度、火勢を抑えた後、残った火を消す場合は投げる方法ではなく、耳の部分のカットし、容器を両手で握り絞り出すようにして使います。 <p>※この方法は（財）市民防災研究所が普及を図っている消火方法です。</p>	

1 一般的な使用要領



2 壁面が燃えている場合の消火要領（強化液消火器）



3 粉末消火器による火勢の抑制要領

○窓などからの放射



○玄関ドアの郵便受けからの放射



消火器具の使い方

1 消火器による消火要領

- 1 できるだけ姿勢を低くして、煙や熱から身を守るように構え、ノズルを火元に向けます。
- 2 粉末消火器は、一旦火が消えたように見えても再び燃え上がる危険があるため、バケツなどで水をかけ完全に消火します。
- 3 強化液消火器は、壁などが燃えているような場合、上からかけると効果があります。

2 粉末消火器による火勢の抑制要領

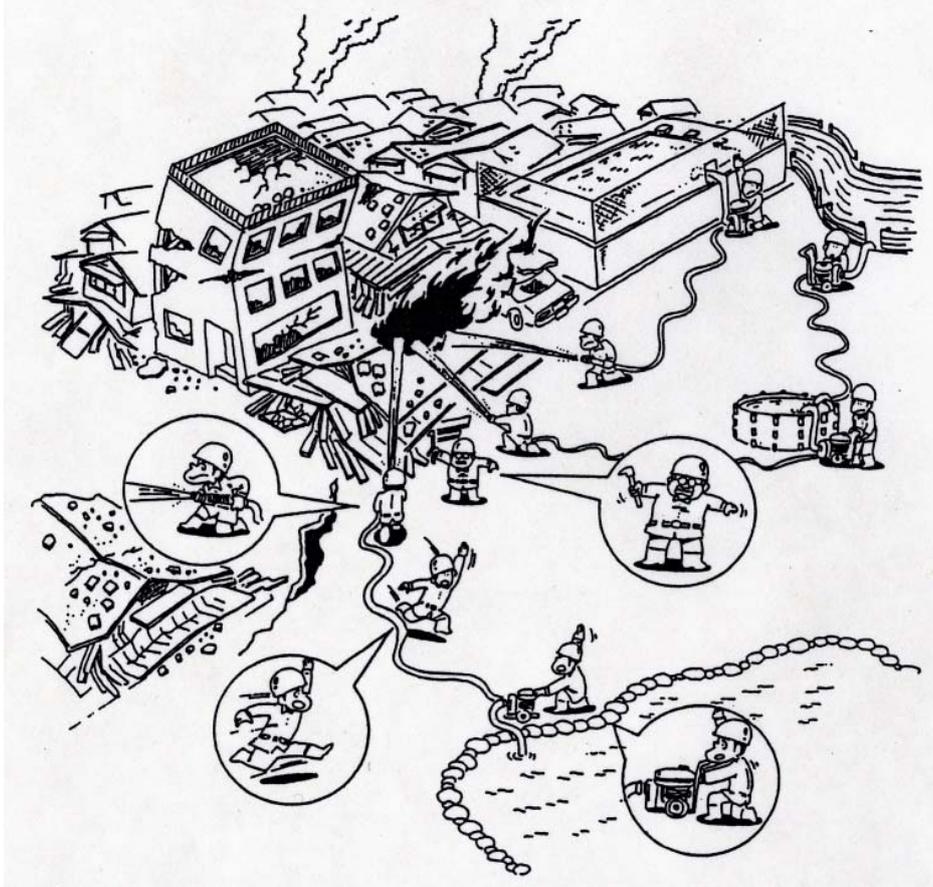
- 1 炎が天井に達したらフラッシュオーバーの危険があるため、初期消火を止めて屋外に避難します。
- 2 屋外に避難をしたら、燃えている屋内に向けて粉末消火剤を放射し、出入口の扉を閉め空気の供給を絶つようにします。
- 3 内部に人が居ないことを確認してから行ってください。

注意事項

- 途中の安全ピンを抜くと、消火する前に薬剤が放射したりして、役に立たないことがあるため注意が必要です。
- 炎の大きさに惑わされないように、燃えているものをしっかりと確認します。
- 室内における初期消火の限界は天井に着火するまでであり、一人だけでなく家族、隣近所で協力しあって消火します。
- 地域に設置されている街頭消火器もできるだけ早く、多く集めて消火します。

No. 3

初期消火活動用資機材（可搬式小型動力ポンプ）



消火器具の使い方

可搬式小型動力ポンプの消火要領

<消火用水の選定>

- 1 できるだけ火元建物に近い消火用水を選定し、強風時には風上側の消火用水を使うなど、風向きに注意します。
- 2 河川を使用する場合は、ストレーナーを水の流れに向けて投入します。
- 3 ポンプから水面までの高低差はC級で7m以内、D級で4m以内を目安とします。

<ホースの延長要領>

- 1 道路、建物の曲がり角では大きく曲げて、折れやねじれ、引きずりを避けます。
- 2 ホースの結合は、漏水しないように確実に行います。

<送水の時期>

- 1 ホースの延長状況や筒先担当の「放水始め」の合図があってから送水します。
- 2 放水口のcockを開けるときは、筒先の反動力を考え徐々に行います。

注意事項

○ 火元建物の消火

火災が発生し燃え広がった場合は、自主防災組織の防火部（班）を中心に、可能な限り大勢が集まって消火活動に協力し、火元建物だけで消し止めるようにします。

○ 隣の建物へ燃え移りそうな場合の消火

火元建物から燃え広がるときは、隣接している建物に注水し、延焼しないようにします。この場合、風下側の建物を優先して多量の水をかけるようにします。

<D級ポンプの消火活動任務分担>

任務	ポンプ側	筒先側
操法	吸管投入・エンジン始動・送水・停止	ホース延長・筒先保持・指揮者・連絡員
2人操法	1人	1人
3人操法	1人	2人